

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市中学校	校長氏名	岩井 正徳	生徒指導主事氏名	角舎 宏治
-----	------------	------	-------	----------	-------

**取組事例名** 『コミュニケーションワークショップ』

**取組のねらい** 『キーワード 人との関わり方』

4月中旬に、入学した新1年生を対象に体育館で様々なレクリエーションを通して、人間関係のトラブル防止の取組の一環として、「コミュニケーションワークショップ」を行う。明るく、活発に、ルールを守って様々なレクリエーションを行うことで、新しい友人関係、仲間との上手な関わり方を構築していく。



演台の方が「劇団あしぶえ」の方

**取組の具体的内容** 『キーワード 交流』

「劇団あしぶえ」の方に来校していただき、劇団員主導で行う。体育館で3クラスずつ計3回（9クラス）行い、その中で6～7パターンのレクリエーションを行う。

事前に、身体的障害の有無、発達障害の有無について、分かっている範囲で伝え、可能なレクリエーションを準備していただいている。そのため、車椅子の生徒も楽しく参加している。



**取組の課題・創意工夫** 『行動観察』

教員は、ワークショップの様子を観察しながら、小学校からの情報と照らし合わせ、生徒の性格、関わり合いの能力、行動など生徒の特性をしっかりと確認している。また、ただのレクリエーションにならないようにするため、ルールの存在を意識させている（規範意識を育む）。規律のある、しかも楽しいワークショップになるように、担任も学級の生徒と一緒に参加している。副担任は、生徒の行動を観察しながら、適切なサポートをしている。

仲間と関わるのが難しい生徒がおり、予想していなかった生徒に対応しなければいけないケースがあり、毎年課題となっている。この「コミュニケーションワークショップ」で、知らなかった生徒の特性を把握でき、生徒の行動観察としては、時期的にも大変貴重な取組となっている。情報が不十分な時期であるので、当日の生徒の動きを、担任、副担任でしっかり見取る必要がある。実際、毎年仲間と関わるのが特に難しい生徒が数名いるため、教員によるサポートが必要となるケースが多い。



\* 足の不自由な生徒は、椅子を利用している（左上女子生徒）。その両横は担任とアシスタント。右上ではスクールカウンセラーと生徒指導主事が観察しながら話をしている。

## 取組の成果（効果）『キーワード 良好な人間関係のスタートとして』

仲間と一緒に活動する楽しさについての感想を述べさせるなど、振り返りをしっかりさせ、日頃の生活に必要なコミュニケーションは、どのようにしていくのが理想なのかを考えさせる。生徒は、楽しく安心できる学級をどのようにして作っていくのか意識するようになる。この「コミュニケーションワークショップ」のねらいをしっかりと理解させて実施することで、取組後、良質な交流が活発化するようになる。



4月、5月は一般的にいじめが心配な時期である。いじめ防止の観点においても有効であると思われる。

## 今後の展開『キーワード 野外活動、学級活動（班活動）、道徳へつなげる』

入学前の小中連携で、小学校との情報連携を進めてはいるが、結果的に生徒の実態がわからないケースが毎年ある。「コミュニケーションワークショップ」の取組では、生徒の気になる言動を新たに発見する事が実際多い。実施後すぐに、小学校との情報交換を行ったり、6月初旬に、小中連携会議（情報交換会）を行ったり、保護者連携を進めている。学年内で、こうした情報をしっかりと共有し、適切な対応をしている。

良好な人間関係を作るために必要なスキルを身につけさせ、生徒の考え方を育てていく。今後の取組としては、どのような言葉かけが良いかを考えさせたり、アンガーマネジメントの取組を行い、怒りの感情をコントロールし、怒りの管理の方法を身に付けさせたりするとともに、道徳の授業で、心や考え方を育てたいと考えている。その上で、今後の学級活動や班活動、野外活動への取り組みにつなげて行きたい。

## 他校へのアドバイス『キーワード 継続性』

「コミュニケーションワークショップ」を終えると、学級内での人間関係がより深まり、新しい仲間と協力して今後の活動を行う雰囲気になる。人間関係のトラブルが始まる時期であるため、良好な人間関係を構築するためのスキルを、様々な活動を通して身に付けさせる必要がある。